

『傑作はまだ』 対象学年／中学生

人と関わることに消極的になってしまふことはありませんか。インターネットの発展により人と深く関わらなくても生きていけるようになった現代、必要最低限以上の関わりを避けてしまふことがあるかもしれません。

この本は、長い間家から出ることがなかった引きこもりの小説家である主人公の元へ、今まで一度も会ったことのない25歳の息子が訪ねてくるところから始まります。その後、二人はしばらくの間一緒に暮らすこととなります。この出来事がきっかけで、主人公は外に出るようになり、人々の善意に触れ、段々と考え方を変化させていきます。

登場人物がとにかく温かいので、自分では失敗したと落ち込んでしまう言動も、実は相手がプラスに受け取ってくれている場合もあるのだと勇気ももらえます。そして、読後はもっと人と関わりたくくなります。

ニュースやSNSなどで人の暗い部分を意識する機会が多いからこそ読んで欲しい、人の温かさに包まれるような一冊です。



(藤井)

親の会 算数『文章題 SOS-1』
国語『記述 SOS-1』

子どもたちにどんな問題が苦手かを聞くと、似たような答えが返ってきます。算数なら文章題、国語なら記述問題。これらの問題が分かるようになったら、解けるようになったら...。今回の親の会はその思いにお応えします。基本的な勉強の仕方ほもちろん、実践の際のヒントもお教えします。ぜひお問い合わせの上、ご参加ください。

日時：12月1日(日) 10:30~12:30
対象：保護者(ごなくても) 料金：1600円(税込)

親の会 入試分析会Ⅰ〜中学生入試攻略編〜

今年も入試分析会を実施いたします。各中学校の入試傾向や今後の動向、そのために今取り組むべきことをお話しいたします。

※高校受験・大学受験につきましては、入試分析会Ⅱとして後日ご案内いたします。

日時：2月16日(日) 10:30~12:00
対象：保護者(ごなくても) 料金：無料

テ ストの点数が伸びない原因

国語の読解という学習単元は、単純に何かを知る喜びがあるだけでなく、概念的なこと、抽象的なことが分かった時に、その学びが現実の中で活かせ、楽しさも格別です。しかし、正解や点数に縛られず、とたんに成績は伸びにくくなります。

たとえば、記述問題の答え合わせをしたときに、ああ、ここに書いてあるこの言葉を使えばよいのか、と思います。しかし、それが分かる過程にまでは考えを向けず、何か手順や法則を使ってその解答に使う言葉を見つけ出せばよく、点数を取る人はそれを知っているのではないかと考えます。「理由は『〜から』という文末で書かれているので、その文章を探して写すとよい」といった手法は、時々「当たる」こともあるかもしれませんが、難易度が上げると全く太刀打ちできません。

そもそも読解問題は文章の内容が「分かっている」ことが前提で問われています。「分かっている」とは、それが何を言っているのか、意味するのかを理解し、別の事案に応用できる状態です。「分かっている」と言えるには自分でその内容を現実(自分の知っている世界)へあてはめられなければなりません。しかし、これがなかなか難しい。当教室での教材の「毎月新聞(佐藤雅彦著)」の中に「これを〇〇とする」と仮に認めると、それを包含している新しい体系が見えてきて、現実のこの世界を前より上手く解釈できる」という一文があります。なんとなく大事そうだな、と要約に用いるものの、中学生くらいでは、自力で本当に理解することは難しいものです。しか

月謝引き落とし

12月度 11月27日(水)
1月度 12月27日(金)
2月度 1月27日(月)

祝日による休塾日

11月23日(土) 勤労感謝の日
1月13日(月) 成人の日
2月11日(火) 建国記念の日
*月火土曜の通塾生は授業を振り替えてください。

年末年始による休塾期間

12月30日(月)〜1月4日(土)
*この期間の振替は必要ありません。

冬期講習期間

12月16日(月)〜1月7日(火)
*冬期講習中も通常授業は行います

最後までお読みいただきありがとうございます。ご意見・ご感想などぜひお聞かせください。また、本紙の送付がご不要の場合、下記QRコードよりお手続きください。



し、講師の手助けでその「体系」が何を意味するかや「解釈」とはどうすることかなどが分かってくる、「本当にそうだね」「数学や物理にもそういうところがあるよね」と腑に落とせますし、次にこうした言葉を含んだ文章に出会っても以前よりずっと理解しやすくなっています。

また、最近流行りの思考型問題は、読解力を認知のレベルから根本的に問ってきます。たとえば、「○の手にふれた。その手は思いがけず温かかった」という表現から、「二人の心が少し通い合った」ということが分かる、というように答えさせます。しかし、これは定型式では解けません。「手が温かい」「心が通う」という単純な公式ではなく、その文脈の中でそのような意味が生まれていること、そして何より、人々が心の表れとして「手の温かさ」を用いたり捉えたりするということを前提にしています。つまり、ものを理解する時には、前提となるスキーム(枠組み)のようなものが必要なのです。

読解力を鍛えたいければ、言葉や文脈を認知するレベルから育てないといけません。語彙、文脈、比喩暗示、常識に思われるような背景的なことも、ひとつひとつ調べたり教えてもらったりすることで、たくさんさんの文章を深く理解していき、読める文章を増やしていきましょう。根本的解決が得点を伸ばします。

(松末)

コクゴのチカラ

Vol.53

松桜塾 662-0036 西宮市大井手町3-11 夙川ビル2F
TEL 0798-74-2801 FAX 0798-74-8686
info@glt-shouou.com http://www.glt-shouou.com/ 2024年11月18日発行(第53号)

- 一面 『テストの点数が伸びない原因』
- 二面 『文章題の常識を疑え! (算数編)』
- 三面 『ライブラリ紹介53』
- 四面 『イベントのお知らせ』



文章題の常識を疑え！(算数編)

文章題を解くときによく言われることといえば、次のものが挙げられるのではないのでしょうか。

- ・問題を「読んで」、何を求めるかはつきりさせる
- ・式を作る(面積図など図を描いて「考える」)
- ・この問題はこう解く、というパターンを覚える

これらの「常識」をすべて否定するつもりはありません。もちろん、実際役立つことも多いですから。ですが、ここではもう一度基本に戻って、文章問題に対峙するときにもっと大切なことに触れていきたいと思えます。

▼条件を読み取る、条件に気付く

当たり前のことですが、単純な計算の問題を除けば、算数であってもすべて文章による問いかけになっています。そして、そこには明記されたもの、隠れたもの、様々な条件が設定されています。そうした条件を読み取り、何らかの形で整理していくことで、解答への道筋が見えてきます。この条件整理は何もつるかめ算や過不足算といった「特殊文章題」だけに課されるわけではありません。必ず・引く・かける・割るといった、大人からすれば計算を一回すれば答えが求められるような明白な問題でも同様です。こういった条件に「気づく」ことで、初めて文章問題に切り込むことができるのです。

確かに稚拙な考え方です。ですが、ヒントなしにこう考えたのなら、素晴らしいことです。その子は「状況を正確に把握」し、「場面をしっかりとイメージ」して問題に向き合っているからです。「式が作れたから問題が解ける」のではなく、「状況把握とイメージができたからこそ、正解が導けた」。それが今後の算数力の伸びに必ずつながっていきます。文章問題は、この流れを考えて取り組めばいいのではないのでしょうか。

条件設定 ▼ 状況把握 ▼ 場面をイメージする

▼考える力はどのように育つのか？

算数において、特に文章で書かれた問題を解く際には、親が子どもに「問題をよく読んで考えてみなさい」と、気軽に声をかけてしまいます。ですが、子どもからすると、何を求めていたら「考える」ことになるのか、いまいちピンときていません。挙句、鉛筆を持ったまま手が止まり、思考も止まり、「考える時間」＝「何もせずにぼーっとする時間」となってしまうのです。何気なく使うこの「考える」ですが、実は、何をしたらいいかわからない状況に子どもを置いてしまいかねません。

それでは、問題を解く上での「考える」とは何なのか、のでしょうか。この場合、「考える」とは「与えられたひとつひとつの条件に合う事柄(数値)を見つけ出し、全ての条件に合う事柄(数値)を見つけて作業」だと定義できます。すると、「考える」は「作業をする」に置き換わり、何をすべきかが明らかになってきます。

▼条件に気付いたら、その視覚化を目指す

イメージして大切!

例えば、同じ引き算を使う条件設定でも、それに対する設問は幾通りもあります。

- 太郎と花子の持っている個数の違いを求めなさい。(二つの「別のもの」を比べる)
- 太郎が〇個食べると残りは何個ですか。〇個残ったとき、食べたのは何個ですか。(二つのものの増減を比べる)

- 昨日の最高気温は19度で、今日は23度です。何度上がりましたか。(ものの変化をみる)



大人の目からは「どれも引き算を使えばいい」とすぐに分かる、分かって当然の問題なのですが、子ども、特に小学校の低学年だとそう簡単にはいきません。特に最後の問題は、直感的には増えているのに、作業としては引き算を使わなければなりません。そこで大切になってくるのが、問題の設定の視覚化です。つまり、文章を読んだときにそれがイメージできる、ということです。

例えば、実際にりんごの絵を個数分描いてみる、温度計を二つ並べて描いてみる…そういった「イメージしやすいもの」を入口にして、「引き算をする場面」を実際に想像し、紙に書き起こし、それを見ながら考える。そういった再現力が、この先複雑な問題を解いていくうえで大きな助けになってい

問題に取り組む時には、まずは単純に書かれてある一つの条件に合った項目を書き出す、条件に合うものと合わないものを分類する、条件に合わないものを省いていくといった作業を意識的に進めてみましょう。こういったことが徐々にできるようになれば、それが本当の『考える力』の育成につながっていくのです。

▼改めて「文章題に取り組む」とは



以上のことから、小学生(特に低学年)の文章題は「条件に当てはまる数値を求める」問題と言い直せます。塾に通っている多くの方は、線分図の描き方など、その問題を解くのに「最適・最短」な方法を習っているでしょう。しかし、低学年の間は特に、そういったやり方に固執する必要は全くありません。確かに、うまい解き方を習ってそれを使って問題を解く、というのは、時間に追われた最近の小学生(だけでなく親にとっても)には魅力的に映ります。ですが、その後のことを考えると、こういった方法はむしろ邪魔なものです。解き方のテクニクを身に付けただけの小学生が、その先にその殻をなかなか破れず、目先を変えられた問題に四苦八苦するのはよくあることです。

一方、自由に発想し、あてはめ、条件に合う数値にたどり着く。そういう道筋をたどり、自分の頭で条件に合うもの考える練習を重ねた子は、算数力が鍛えられます。そして、テクニクから入った子にはない「力強さ」が備わります。それこそが、中学受験の算数の難問や、さらにその先にある数学の学習に大いに役立ってくるのです。(道幸)

きます。ここでは「引き算」を例にしましたが、かけ算や割り算でも、そういった再現力は同程度、またはそれ以上に要求されます。大人が一言で「これ引き算でしょ」「これ割り算ね」などと言ってしまおうと、子どものイメージする力はそこで終了。その先へは決して進まないでしょう。

▼立式にとらわれすぎていない!?

式が書かれていなければ答えがあっても正解扱いしてもらえない、これは中学や高校で数学をやってきた大人にとっては当然のことです。そのため、「立式」が重要と考えてしまいがちです。でも、算数では立式は不要です。たとえば、次のような問題があります。

- 朝家を出たときにみかんは10個ありました。その日学校から帰るとみかんは7個になっていました。何個減りましたか。

10-7=3
3個減った!

これでももちろんいいのですが、次のように考える子がいたらいいかがでしょう。

7+1=8, 8+1=9, 9+1=10
最初の1個はお母さんが食べて
次の1個はおばあちゃんが食べて
あと1個はまたお母さんが食べたんだ!
だから、1+1+1=3個

冬期講習のお知らせ

12月16日(月)から冬期講習を実施いたします。学校の授業や習い事、部活などでなかなか通塾できない方、レギュラー受講の前にお試しで受講してみたい方、ぜひこの機会をご利用ください。学びの基本である「考える練習」は、お家や学校での学習にも効果的です。詳細・お申込はホームページをご覧ください。

下記QRコード、または☎の公式アカウントからどうぞ。



実施期間 ※土日祝のぞく
12月16日(月)~1月7日(火)
国語：月~金
算数・数学：火・木・金

小学1年生~4年生 / Basicコース
授業時間 60分×3回
受講料金 17,600円(税込)
教材費用 2,200円(税込)

小学5年生~中高生 / Standardコース
授業時間 90分×3回
受講料金 22,000円(税込)
教材費用 2,200円(税込)

時間割	①コマ目	②コマ目	③コマ目	④コマ目	⑤コマ目
Basicコース(60分)	11:40~12:40	14:15~15:15	16:00~17:00		
Standardコース(90分)	11:10~12:40	13:45~15:15	15:30~17:00	17:15~18:45	19:00~20:30